

# ケアポート板橋 特養 4 階

**症 例 概 要**      利用者:90代 要介護度 5

病名:アルツハイマー型認知症 膝関節症 髄膜種

経過:H29年2月末入所。H30年2月頃より、膝痛、認知症の進行からか、食事に集中する事ができず、食事介助も激しく拒まれ、食事摂取量が急激に減少。約50kg程あった体重が、1ヶ月で40kg弱まで減少となる。それに伴い、3月右膝内側、左大転子部、4月右臀部、右腸骨の4か所に褥瘡が発生。多職種一丸となり、その褥瘡を完治させた事例。

## 内 容

平成30年2月頃、食事を殆ど召し上がられなくなり、活気もなく、日中も臥床している時間が増えました。膝に強い拘縮がみられ、食事介助を拒み、必死で対応しましたが、体重は1か月で14kg減少、4か所に褥瘡が発生している状況でした。

褥瘡対応計画書を多職種で見直し、現状を考え1年以内での完治目標とし、看護においては介護職と連携した1日2回の処置を開始。PT及び教育委員長による評価にて、フロア全体でのポジショニング、シーティング方法の改善及び統一を実施しました。

また入浴委員会においては、入浴回数を週2回から4回へ変更し、創部の清潔保持及び改善を狙い、食事面においては、管理栄養士と共にバナナや高カロリーゼリーの補食を個別に時間を掛けて行うことで、徐々に食事が増加していきました。

排泄褥瘡委員会では、食事に混ぜて摂れるプロテインを発見し、摂取頂く事で、体重の増加は見受けられないものの、維持は出来るようになりました。

ご本人の活気も出てきて、徐々に褥瘡は改善傾向に向かいましたが、ご自分で創部を搔いてしまったり、改善したことで対応が継続されない時期などがあった為、膝、臀部の褥瘡共に繰り返しておりました。ただ諦めず対応することで、令和元年12月に4か所あった褥瘡は全て完治させることができました。ご本人が笑顔になる時間も増え、食事を自力摂取できるまでになりました。

約10ヶ月に渡る期間、褥瘡の完治に努めてきましたが、一つの目標に対し専門職ならびに関わる全ての職員が強く意識し、チーム一丸となって問題点に向け、立ち向かうこと。これこそが「OneTeam」であると実感致しました。



一つの目標に向け、チームで利用者さんの笑顔、尊厳を取り戻したこの症例はキラキラ介護賞に値すると思い、推薦させていただきます。